

教育支援に感謝、そしてお願い

奨学金、給食支援その他、昨年度もたくさんの方の会員、市民、助成団体に支えていただいていた、子どもたちはそれぞれの課程を修了、卒業することができました。6月新学期には、さらに多くの子もたちを学校に迎えることができるように、ワンコインの教育支援にご協力をお願いします。



2011年4月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

<http://homepage3.nifty.com/hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

未曾有の大震災と私たちのミンダナオ先住民族を支える活動

この度の大震災で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りするとともに被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

少しずつですが復興の歩みを進める津波被災地がある一方で、福島原発事故の収束のめどは立っていません。日本の危機にあたり、海外支援に軸足を置く多くのNGOが被災地の支援活動に参加しています。私たちは独自に災害支援活動を行うノウハウがないため、早い時期に現地入りし精力的に活動している山形のNGOを通じて、少しでも活動資金を支援させていただきました。

当会の現地パートナー4団体のスタッフからも、会員、市民の皆様の無事を祈るメールがたくさん届きました。また、原発問題の深刻さが世界中に伝えられる中で、今後とも医療や教育支援、植林事業を支えてもらえるだろうかという懸念のメールもありました。



トラックで川を渡る (前回のキアミ行)

原発問題が気がかりですが、5月末には学校建設を支援いただいた鎌ヶ谷の市民グループICECKの6名をご案内してビラーン民族の村を訪ねることにしています。6-15歳まで約150人の未就学児童が学校の完成を待っているナブル村までは、当会の支援地域キアミ村からさらに山道を歩いて6時間かかります。新しい学校を見たいのですが、治安と日程の都合で、私たちがナブルに行くのではなく、ナブルの子どもたちにキアミ村に来てもらい、キアミ分校で開校式を行うことにしました。山道を歩きなれている子どもたちは、3時間ほどで来られるそう

です。しかし、そのキアミまでも、ジェネラルサントス市からは、軍払い下げのトラックで橋のない川を30回以上渡り、ぬかるみにはまった時はウインチで引っ張ったりして4時間余りかかります。ミンダナオ初訪問の6名にはかなりきつい行程で驚かれるのではないのでしょうか。

キアミやナブルを含めて私たちが関わる先住民族の村の多くは、現象的には津波の被災地と同じで、電気も安全な水も、病人を迅速に町の病院に運ぶ道路や橋もありません。数年前に簡易水道や蚊帳を支援するまでは、キアミではマラリア罹患率が高く、毎年子どもを含め10名ほどが亡くなっていました。

この度日本政府は、被災地について復旧ではなく創造的復興を目指すと発表しました。私たちの先住民族を支える活動も、地球の温暖化を一層進める資源大量消費型の先進国並みを目指すのではなく、人間を自然の征服者でなく共存する存在であるというアニミズムの考え方を学びながら、持続可能な経済的自立のお手伝いができたらと思っています。「人は何とシンプルに生きられるものか」という訪問の度に受ける印象を大切にしたいと思います。

早く学校に戻りたいと願う日本の被災地の子どもたち、村に学校ができるのを待ち望むビラーンの子もたち。どちらの笑顔も早く見たいものです。

(山崎)